

# 凧

三島西中学校 2年生 学年通信 R2, 5, 1 (発行者-内田賢雄)

## 【5月5日】こどもの日

### ～屋根より高い鯉のぼり～

鯉・コイを空高く掲げるのはなぜ

その理由・由来については、中国の故事「登竜門」が大きく関係していると言われています。

その故事によれば、中国の山奥には、「竜門」という大きな滝があり、この滝を登り切った魚は龍になり、天を舞うのだそうです。龍になることを夢見て、数多くの魚たちが滝に挑みますが、ことごとく失敗します。そんな中、一匹の鯉が見事に竜門を登り切り、龍となって空へ上っていきました。

この故事により、空高く舞う鯉のぼりは、立身出世の象徴となり、日本では、5月5日のこどもの日に合わせて鯉のぼりを掲げ、こどもの健やかな成長を願うようになったと言われています。

折しも、今年のこどもの日は、大変な国難の中で迎えることになりました。本来ならGWの楽しい行事に心を躍らせたり、部活動で朝から夕方まで練習試合等に明け暮れたりしていたことでしょう。一転、現実を直視すれば、そこには中学2年生のみなさんなりの苦労や不安、悩みや迷いの中に立たされている人も多いかもしれません。

しかしながら、みなさんはまだ子供です。真っ白のキャンパスに、とてつもなく大きな夢を描けるのが子どもです。純粹にその夢に向かって突き進むことができるのです。いずれ挫折や諦めを経験することになるかもしれません。が、それはまだ先のことです。このような状況だからこそ、みなさんには、果てしなく大きな夢を抱いてもらいたいと思います。鯉が滝を上り、龍になり、天空を舞うように、夢に向かって果敢にチャレンジし、大輪の花を咲かせる自分の未来を想像してみてください。

社会は今、元気を失いつつあります。暗い闇が覆いそうな気配があります。そんな時に力になるのが、子どもの明るさ、笑顔、屈託なく夢を見る目です。鯉のぼりの先には海より大きい空が広がっています。子どもは下を向くのではなく、上を向くのです。空を見上げるのです。空を見て、大きな大きな夢を持つことで、自分の意志が生まれます。意志が生まれ、必ず道が開けます。その道を、ひたすら前へ前へ、くそ真面目に歩むのです。

「鯉が滝を上るように。」

いずれ学校が再開すれば、楽しいことばかりが待っているわけではない、というのは容易に予測ができるでしょう。生活リズムが整わず、50分の授業が苦痛に思えるかもしれません。お互いの感情だけが先走り、「ありがとう」の言葉さえ忘れてしまうこともあるかもしれません。あるいは、これからの学校生活には、今まで見たことがないような光景が待っていることも考えられます。学校再開は、ストレスの中に身を置く生活の再開と言えるかもしれません。

休校中の今だからこそ、そして世の中が閉塞感に包まれている時だからこそ、こどもの日には、子供らしく、子供らしい願い（夢）を誰はばかりことなく、掲げてください。今年のこどもの日だからこそです。子どもの願い（夢）は、大人の願い（夢）でもあります。